

海外安全対策情報（2020年1月～3月）

1 社会・治安情勢

(1) カラチ市

ア 2013年9月以降、準軍組織レンジャー及びシンド州警察がテロ組織を集中的に取り締まり、検挙及び銃器や爆発物等の押収を進め、大規模なテロ等の阻止を図る通称「カラチ掃討作戦」を現在も継続しており、テロ、殺人の発生件数は減少傾向にあるが、依然として強盗、窃盗等の街頭犯罪が発生しており警戒を要する。

イ 当期1～3月は、テロ発生件数2（7）件（以下カッコ内は前年同期）、死者数1（9）名、負傷者数1（1）名であった。

(2) バロチスタン州

ア パキスタンからの独立や同州の自治拡大を目的とする民族主義武装集団等による反政府活動や治安機関へのテロ攻撃が行われている。また、中パ経済回廊（CPEC）事業や外国人投資家に対するテロの脅威が存在する。州都クエッタ市では宗教過激派等による異宗派、移民、治安機関を対象とした標的殺人や爆弾テロ事件が発生している。

イ 当期1～3月は、テロ発生件数12（29）件、死者数37（49）名、負傷者83（143）名であった。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 邦人関連事案

無し

(2) 犯罪統計

カラチ市警察が発表した当期1～3月の犯罪統計によれば、強盗件数が増加するなど市民に身近な街頭犯罪の発生件数は依然として発生しているため、防犯対策など十分な注意が必要である。

主な犯罪種別の内訳は以下のとおり。

・ 殺人	84件	（ 111件）
・ 身代金目的誘拐	1件	（ 2件）
・ 強盗	1,104件	（ 761件）
・ 強姦性交等	45件	（ 25件）
・ 薬物所持	2,372件	（ 1,197件）
・ 武器不法所持	1,515件	（ 1,917件）

(3) 銃器使用による強盗（ガンポイント）

当地では強盗に注意する必要がある。カラチ市における強盗の形態は、バイクに乗った2人組が、停止中の車両や歩行者を標的とする場合がある。また、銀行、両替商

を利用後に多額の現金を所持した状態で被害に遭う場合もあり、注意が必要である。

3 主な治安関連事案（報道ベース）

（1）シンド州カラチ市

- ① イラン革命防衛軍司令官が1月3日米軍に殺害されたことを受け、1月5日、カラチ市でシーア派コミュニティによる数千人規模の米国に対する抗議活動（サダル地区記者クラブから米国領事館に向けて行進）があった。
- ② 1月15日の早朝、ジャムシェドにおいて、スンニ派過激政党であるアハレ・スンナト・ワ・アル・ジャマート（Ahle Sunnat Wal Jammāt : ASWJ）の活動家が、オートバイに乗車した男から4発の銃撃を受けて死亡した。
- ③ 1月18日、DHAにおいて退役軍人が果物を買うために車から降りたところ、太ももに銃弾を受けて死亡、店員1名が負傷した。被害者はDHAで学校を所有しており、学校から帰宅途中だった。
- ④ 1月23日、レンジャーはテロ対策部（CTD）と協力して、カラチ市オランギにおいて2人の最重要指名手配テロリストを逮捕した。2011年以来、法執行機関に指名手配されていた。
- ⑤ 1月25日、カラチ市警察は、カラチ市に数千台の監視カメラ（CCTV）を設置することを計画している。今後6か月で約10,000台のカメラを設置することを目標としている。
- ⑥ 2月11日、クリフトンにおいて、40歳男性が頭を撃たれて死亡した。個人的な恨みが原因とみられる。
- ⑦ 2月28日夜、ランディにおいて警察官が銃で撃たれて重傷を負った。シンド分離独立派のシンド革命軍（SRA）が犯行声明を出した。
- ⑧ 3月5日、グルバハール地区において違法建築の5階建ての建物が倒壊し、その中の住民27名が死亡した。
- ⑨ 3月15日、DHAにおいて警備員が窃盗犯を銃殺した。警備員は取り調べのため拘束された。
- ⑩ シンド州政府は、3月23日よりシンド州全体において都市封鎖（Lockdown）を開始した。

（2）バロチスタン州

- ① 1月7日、クエッタにおいてオートバイの爆発により、2人が死亡、治安部隊員や子供を含む14人が負傷した。パキスタン・タリバン運動の分派ヒズブル・アフラルが犯行声明を出した。
- ② 1月10日、クエッタのモスクの中で自爆により、警察幹部を含む15人が死亡、19人が負傷した。ISが犯行声明を出した。
- ③ 1月27日、ピシン地区において、テロ対策局（CTD）は銃撃戦の末、パキスタ

ン・タリバン運動（TTP）に属する2名のテロリストを殺害した。容疑者は多数の爆弾テロ、身代金誘拐事件、治安部隊に対するテロ攻撃に関与していた。

- ④ 1月30日、治安部隊は、ケチ地区およびシビ地区でテロ容疑者6名を殺害した。テロ容疑者はバロチスタンを他の地域から遮断するためケチ地区とシビ地区の線路に爆発物を設置していた。彼は非合法組織の重要な指揮官であるという。
- ⑤ 2月5日、シビ地区ハルナイのモスク内でテロリストが発砲し、警官が殉職、男性1名が負傷した。巡回任務中の警官が、モスクに入ったときに発生した。武装した男が2名に発砲し、モスクに大量の爆発物を残して逃走した。爆弾処理部隊は、テロリストが遺留したバッグから爆発物、起爆装置等を回収した。
- ⑥ 2月9日、シビ地区ハルナイにおいて、辺境警備隊が車両で移動中に地雷が爆発したことにより、辺境警備隊員1名が殉職、他に5人が負傷した。
- ⑦ 2月17日、クエッタ地方裁判所とプレスクラブの近くにおいて、自爆攻撃により警官2名と部族民兵1名を含む8名が死亡、20名以上が負傷した。
- ⑧ 2月18日夜、トゥルバットにおいて国境警備隊の拠点が武装集団の攻撃を受け、少なくとも5名が死亡、3名が負傷した。
- ⑨ 3月7日夕、チャマンの治安部隊施設近くで爆発があり、少なくとも8人が負傷した。このうち3人が重体。負傷者のうち3人は治安部隊関係者だという。
- ⑩ 3月9日、キラ・アブドゥラーにおいて、路上に設置された爆弾が遠隔操作により爆発し、部族長ほか1名が負傷した。
- ⑪ 3月10日、パンジュグル地区において、武装した男らが民家を銃撃し、3名が死亡、女性1名が負傷、男性1名が誘拐された。
- ⑫ 3月26日、トゥルバットにおいて、武装集団が治安部隊に対して発砲し、隊員2人が死亡、4人が負傷した。治安部隊はこの地域で頻繁に行われている密輸の取り締まりや新型コロナウイルス感染対策として、対イラン国境沿いで警備を強化していた。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

当期1～3月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目的誘拐は1件発生した。2017年5月にはバロチスタン州クエッタ市において中国人2名が誘拐・殺害されている。また、2018年2月にカラチ市内において邦人が拳銃使用の強要被害に遭っており、誘拐事案に発展するおそれがあった。

当地では誘拐は資金獲得の手段としてテロ組織が犯行に及ぶ場合や、犯罪組織等が誘拐した被害者を売り渡す場合もある。犯罪者に隙を与えないよう目立たず、行動を予測されないようにする日常生活上の注意が必要である。

5 新型コロナウイルス感染拡大に伴う全世界に対する危険情報・感染症危険情報の発出

(1) 危険情報（出国制限措置や航空便の運休による出国困難：3月25日付）

世界各地で、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、国境閉鎖や外出禁止令により行動制限を受けたり、航空便の突然の減便又は運行停止により影響を受けたりする事例が発生していることから、これらの事態を防ぐため、不要不急の渡航をやめていただきたい。

(2) 感染症危険情報（3月31日付）

新型コロナウイルス感染が世界的な広がりを見せている状況を勘案し、当地を含む全世界に対し、感染症危険情報レベルをレベル2（不要不急の渡航はやめてください。）に引き上げた。感染の地理的拡大の可能性に注意し、状況が悪化する可能性も念頭に、出入国規制や検疫措置の強化に関する最新情報を確認するとともに、感染予防に万全を期していただきたい。

6 日本企業の安全に関する諸問題

(1) 渡航の際の留意事項

当地ではテロ集団による治安機関に対するテロ攻撃に警戒を強めている状況にある上、バローチ民族主義のテロ組織が中国権益に対しテロ攻撃を継続するおそれがある。また、2019年2月には、印パ間の緊張に伴い、国内空港の閉鎖及び商用便の運休・時間変更等、邦人の航空機利用に大幅な影響が出た。

よって、当地へ渡航される場合は、事前に報道等により最新の治安情報を確認するとともに、外務省ホームページに掲載されている渡航情報等を参考にし、渡航の是非を充分検討していただきたい。

(2) 駐在される場合

当地ではテロの危険があるほか、拳銃使用の強盗等の街頭犯罪も発生している。また、テロ集団等による営利を目的とした誘拐等の被害に遭う可能性も否定できないことから、当地に駐在される場合は、必ず外務省海外安全ホームページ掲載の「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け安全対策マニュアル」等各種安全対策資料や当館ホームページ掲載の「安全の手引き」等をご活用の上、十分な安全対策を講じていただきたい。

もし事件に巻き込まれた場合、在外公館と在留邦人が緊密に連携して情報を共有し、安全を確保する必要があることから、当館への連絡を徹底していただきたい。

（以上）